

0001 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「斜視では一眼または交互の眼が注視目標から外れ、両眼視軸が一致しない。」

ア．発症年齢と感覚適応

イ．斜視を定義

ウ．共同性・非共同性

エ．一次偏位と二次偏位の関係

0002 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「斜位は融像で補正されている潜在性眼位ずれで、遮閉などにより解離すると顕在化する。」

ア．斜位と斜視

イ．発症年齢と感覚適応

ウ．共同性・非共同性

エ．恒常性と間欠性

答え・解説 正答：イ

ア：「発症年齢と感覚適応」は別の論点である。主な要点は「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「斜視を定義」の要点を示している。斜視では一眼または交互の眼が注視目標から外れ、両眼視軸が一致しない。

ウ：「共同性・非共同性」は別の論点である。主な要点は「外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「斜位と斜視」の要点を示している。斜位は融像で補正されている潜在性眼位ずれで、遮閉などにより解離すると顕在化する。

イ：「発症年齢と感覚適応」は別の論点である。主な要点は「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「共同性・非共同性」は別の論点である。主な要点は「外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「恒常性と間欠性」は別の論点である。主な要点は「融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0003

斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：標準

「斜視の定義・病因・分類」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。」

ア．斜視評価に必要な基本項目
イ．斜視を定義
ウ．一次偏位と二次偏位の関係
エ．共同性と非共同性

0004

斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「条件により正位に近い状態と顕性偏位が入れ替わる。融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。」

ア．斜視評価に必要な基本項目
イ．斜視を定義
ウ．恒常性と間欠性
エ．一次偏位と二次偏位の関係

答え・解説

正答：エ

ア：「斜視評価に必要な基本項目」は別の論点である。主な要点は「これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「斜視を定義」は別の論点である。主な要点は「斜視では一眼または交互の眼が注視目標から外れ、両眼視軸が一致しない。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「共同性と非共同性」の要点を示している。外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：「斜視評価に必要な基本項目」は別の論点である。主な要点は「これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「斜視を定義」は別の論点である。主な要点は「斜視では一眼または交互の眼が注視目標から外れ、両眼視軸が一致しない。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「恒常性と間欠性」の要点を示している。条件により正位に近い状態と顕性偏位が入れ替わる。融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。
エ：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0005 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：応用

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「交代性では左右どちらの眼も固視に使用され、偏位眼が固定されない。」

ア．一次偏位と二次偏位の関係
イ．交代性斜視
ウ．発症年齢と感覚適応
エ．恒常性と間欠性

答え・解説 正答：イ

ア：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「交代性斜視」の要点を示している。交代性では左右どちらの眼も固視に使用され、偏位眼が固定されない。
ウ：「発症年齢と感覚適応」は別の論点である。主な要点は「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「恒常性と間欠性」は別の論点である。主な要点は「融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0006 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「重い屈折異常、白内障、網膜・視神経疾患などで一眼の像質が低下すると感覚性斜視を生じ得る。」

ア．一次偏位と二次偏位の関係
イ．恒常性と間欠性
ウ．感覚性斜視の病因
エ．共同性・非共同性

答え・解説 正答：ウ

ア：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「恒常性と間欠性」は別の論点である。主な要点は「融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「感覚性斜視の病因」の要点を示している。重い屈折異常、白内障、網膜・視神経疾患などで一眼の像質が低下すると感覚性斜視を生じ得る。
エ：「共同性・非共同性」は別の論点である。主な要点は「外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0007 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：基礎

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「脳神経麻痺では支配筋の作用方向で運動制限が現れ、偏位量が注視方向により変化する。」

ア．発症年齢と感覚適応

イ．一次偏位と二次偏位の関係

ウ．共同性と非共同性

エ．麻痺性斜視

0008 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「麻痺筋を動かすため増加した神経支配が対側共同筋にも等しく伝わるため。Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力に対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」

ア．交代性斜視

イ．斜視を定義

ウ．斜視評価に必要な基本項目

エ．一次偏位と二次偏位の関係

答え・解説 正答：エ

ア：「発症年齢と感覚適応」は別の論点である。主な要点は「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力に対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「共同性と非共同性」は別の論点である。主な要点は「外眼筋麻痺や機械的拘束などにより、注視方向で偏位量が変化する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「麻痺性斜視」の要点を示している。脳神経麻痺では支配筋の作用方向で運動制限が現れ、偏位量が注視方向により変化する。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：エ

ア：「交代性斜視」は別の論点である。主な要点は「交代性では左右どちらの眼も固視に使用され、偏位眼が固定されない。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「斜視を定義」は別の論点である。主な要点は「斜視では一眼または交互の眼が注視目標から外れ、両眼視軸が一致しない。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「斜視評価に必要な基本項目」は別の論点である。主な要点は「これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「一次偏位と二次偏位の関係」の要点を示している。麻痺筋を動かすため増加した神経支配が対側共同筋にも等しく伝わるため。Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力に対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0009 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：応用

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」

ア．交代性斜視
イ．発症年齢と感覚適応
ウ．麻痺性斜視
エ．斜視評価に必要な基本項目

答え・解説 正答：イ

ア：「交代性斜視」は別の論点である。主な要点は「交代性では左右どちらの眼も固視に使用され、偏位眼が固定されない。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「発症年齢と感覚適応」の要点を示している。幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。
ウ：「麻痺性斜視」は別の論点である。主な要点は「脳神経麻痺では支配筋の作用方向で運動制限が現れ、偏位量が注視方向により変化する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「斜視評価に必要な基本項目」は別の論点である。主な要点は「これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0010 斜視の基礎と病型 > 斜視の定義・病因・分類 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。」

ア．一次偏位と二次偏位の関係
イ．発症年齢と感覚適応
ウ．恒常性と間欠性
エ．斜視評価に必要な基本項目

答え・解説 正答：エ

ア：「一次偏位と二次偏位の関係」は別の論点である。主な要点は「Heringの等量神経支配により、麻痺眼固視時は強い神経入力が対側共同筋にも伝わり二次偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「発症年齢と感覚適応」は別の論点である。主な要点は「幼少期は神経可塑性が高く、偏位眼像を抑制して複視を回避する場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「恒常性と間欠性」は別の論点である。主な要点は「融像の状態、疲労、注視距離などにより偏位が出現・消失する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「斜視評価に必要な基本項目」の要点を示している。これらを整理すると斜視病型と病因、弱視・両眼視への影響を系統的に捉えられる。

総合解説：この問題は「斜視の定義・病因・分類」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0011

斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：応用

「内斜視・外斜視」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「乳児内斜視は通常生後6か月以内に発症し、大角度で恒常性となることが多い。」

ア．乳児内斜視の特徴
イ．divergence excess型
ウ．convergence insufficiency型
エ．基本型間欠性外斜視

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「乳児内斜視の特徴」の要点を示している。乳児内斜視は通常生後6か月以内に発症し、大角度で恒常性となることが多い。
イ：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「基本型間欠性外斜視」は別の論点である。主な要点は「basic typeでは遠見と近見の偏位量が大きくは異ならない。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0012

斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「完全調節性内斜視。遠視による過剰調節と調節性輻湊が主因なら、完全遠視矯正で眼位が改善する。」

ア．divergence excess型
イ．convergence insufficiency型
ウ．完全調節性内斜視
エ．外斜視のコントロール

答え・解説

正答：ウ

ア：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「完全調節性内斜視」の要点を示している。完全調節性内斜視。遠視による過剰調節と調節性輻湊が主因なら、完全遠視矯正で眼位が改善する。
エ：「外斜視のコントロール」は別の論点である。主な要点は「偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0013 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：基礎

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「調節性成分と非調節性成分が併存し、完全矯正後も残余内斜視が持続する。」

ア．部分調節性内斜視
イ．divergence excess型
ウ．convergence insufficiency型
エ．外斜視のコントロール

0014 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「調節1Dあたりの調節性輻湊が大きいため、近見で偏位が増えやすい。」

ア．高AC/A型内斜視
イ．外斜視のコントロール
ウ．内斜視で遠視評価が重要な理由
エ．間欠性外斜視の特徴

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「部分調節性内斜視」の要点を示している。調節性成分と非調節性成分が併存し、完全矯正後も残余内斜視が持続する。
イ：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「外斜視のコントロール」は別の論点である。主な要点は「偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「高AC/A型内斜視」の要点を示している。調節1Dあたりの調節性輻湊が大きいため、近見で偏位が増えやすい。
イ：「外斜視のコントロール」は別の論点である。主な要点は「偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「間欠性外斜視の特徴」は別の論点である。主な要点は「融像コントロールが弱まる状況で外方偏位が顕在化しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

0015 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」

ア．内斜視で遠視評価が重要な理由
イ．convergence insufficiency型
ウ．divergence excess型
エ．外斜視のコントロール

0016 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「疲労やぼんやり遠方を見るときに外斜視が顕在化する。融像コントロールが弱まる状況で外方偏位が顕在化しやすい。」

ア．convergence insufficiency型
イ．間欠性外斜視の特徴
ウ．divergence excess型
エ．内斜視で遠視評価が重要な理由

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「内斜視で遠視評価が重要な理由」の要点を示している。小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。
イ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「外斜視のコントロール」は別の論点である。主な要点は「偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：イ

ア：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「間欠性外斜視の特徴」の要点を示している。疲労やぼんやり遠方を見るときに外斜視が顕在化する。融像コントロールが弱まる状況で外方偏位が顕在化しやすい。
ウ：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0017 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：応用

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。」

ア．divergence excess型

イ．convergence insufficiency型

ウ．内斜視で遠視評価が重要な理由

エ．外斜視のコントロール

答え・解説 正答：エ

ア：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「外斜視のコントロール」の要点を示している。偏位頻度増加や再融像遅延は融像制御低下を示す。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0018 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「basic typeでは遠見と近見の偏位量が大きくは異なる。」

ア．convergence insufficiency型

イ．基本型間欠性外斜視

ウ．divergence excess型

エ．内斜視で遠視評価が重要な理由

答え・解説 正答：イ

ア：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「基本型間欠性外斜視」の要点を示している。basic typeでは遠見と近見の偏位量が大きくは異なる。

ウ：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0019 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

「内斜視・外斜視」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」

ア．内斜視で遠視評価が重要な理由
イ．内外斜視の治療目標
ウ．divergence excess型
エ．乳児内斜視の特徴

答え・解説 正答：ウ

ア：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「内外斜視の治療目標」は別の論点である。主な要点は「小児斜視では眼位だけでなく弱視予防、両眼視・立体視発達を考慮する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「divergence excess型」の要点を示している。遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。
エ：「乳児内斜視の特徴」は別の論点である。主な要点は「乳児内斜視は通常生後6か月以内に発症し、大角度で恒常性となることが多い。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0020 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「近見外斜視角が遠見より大きい。近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」

ア．convergence insufficiency型
イ．内斜視で遠視評価が重要な理由
ウ．内外斜視の治療目標
エ．乳児内斜視の特徴

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「convergence insufficiency型」の要点を示している。近見外斜視角が遠見より大きい。近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。
イ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「内外斜視の治療目標」は別の論点である。主な要点は「小児斜視では眼位だけでなく弱視予防、両眼視・立体視発達を考慮する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「乳児内斜視の特徴」は別の論点である。主な要点は「乳児内斜視は通常生後6か月以内に発症し、大角度で恒常性となることが多い。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0021 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「一眼の視覚入力低下により融合が保てず、外方偏位を生じることがある。」

ア．divergence excess型
イ．感覚性外斜視
ウ．convergence insufficiency型
エ．内斜視で遠視評価が重要な理由

答え・解説 正答：イ

ア：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「感覚性外斜視」の要点を示している。一眼の視覚入力低下により融合が保てず、外方偏位を生じることがある。
ウ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0022 斜視の基礎と病型 > 内斜視・外斜視 | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「小児斜視では眼位だけでなく弱視予防、両眼視・立体視発達を考慮する。」

ア．divergence excess型
イ．convergence insufficiency型
ウ．内斜視で遠視評価が重要な理由
エ．内外斜視の治療目標

答え・解説 正答：エ

ア：「divergence excess型」は別の論点である。主な要点は「遠方での外方偏位が近見より明らかに大きい外斜視型である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「convergence insufficiency型」は別の論点である。主な要点は「近見時の輻湊能力不足により、近見偏位が大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「内斜視で遠視評価が重要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下では遠視が隠れやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「内外斜視の治療目標」の要点を示している。小児斜視では眼位だけでなく弱視予防、両眼視・立体視発達を考慮する。

総合解説：この問題は「内斜視・外斜視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0023 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：標準

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「垂直偏位では上方に位置する眼を基準にhypertropiaと表現する。」

ア．Duane眼球後退症候群

イ．上下斜視

ウ．外転神経麻痺の特徴

エ．Brown症候群

答え・解説 正答：イ

ア：「Duane眼球後退症候群」は別の論点である。主な要点は「外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「上下斜視」の要点を示している。垂直偏位では上方に位置する眼を基準にhypertropiaと表現する。

ウ：「外転神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「右外直筋が弱くなるため右眼が内方偏位し、右方視で像のずれが大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「Brown症候群」は別の論点である。主な要点は「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0024 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「眼球の回旋偏位。cyclotropiaは眼球が視軸周りに内旋または外旋した顕性偏位である。」

ア．滑車神経麻痺の特徴

イ．外転神経麻痺の特徴

ウ．Brown症候群

エ．回旋斜視

答え・解説 正答：エ

ア：「滑車神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「外転神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「右外直筋が弱くなるため右眼が内方偏位し、右方視で像のずれが大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「Brown症候群」は別の論点である。主な要点は「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「回旋斜視」の要点を示している。眼球の回旋偏位。cyclotropiaは眼球が視軸周りに内旋または外旋した顕性偏位である。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0025 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：応用

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「A型では上方視と下方視で水平偏位量に系統的差があり、下方視側で相対的に外方開大する。」

ア．A型斜視

イ．Brown症候群

ウ．滑車神経麻痺の特徴

エ．外転神経麻痺の特徴

0026 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「V型では上方視で外方開大する偏位パターンを示す。」

ア．Duane眼球後退症候群

イ．Brown症候群

ウ．V型斜視

エ．滑車神経麻痺の特徴

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「A型斜視」の要点を示している。A型では上方視と下方視で水平偏位量に系統的差があり、下方視側で相対的に外方開大する。

イ：「Brown症候群」は別の論点である。主な要点は「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「滑車神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「外転神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「右外直筋が弱くなるため右眼が内方偏位し、右方視で像のずれが大きくなる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ウ

ア：「Duane眼球後退症候群」は別の論点である。主な要点は「外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「Brown症候群」は別の論点である。主な要点は「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「V型斜視」の要点を示している。V型では上方視で外方開大する偏位パターンを示す。

エ：「滑車神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0027 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：基礎

「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどこか。
「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」

ア．回旋斜視

イ．滑車神経麻痺の特徴

ウ．Duane眼球後退症候群

エ．Brown症候群

0028 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「右眼外転制限と右方視で増悪する水平複視。右外直筋が弱くなるため右眼が内方偏位し、右方視で像のずれが大きくなる。」

ア．上下斜視

イ．外転神経麻痺の特徴

ウ．回旋斜視

エ．Duane眼球後退症候群

答え・解説 正答：イ

ア：「回旋斜視」は別の論点である。主な要点は「cyclotropiaは眼球が視軸周りに内旋または外旋した顕性偏位である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「滑車神経麻痺の特徴」の要点を示している。上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。

ウ：「Duane眼球後退症候群」は別の論点である。主な要点は「外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「Brown症候群」は別の論点である。主な要点は「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：イ

ア：「上下斜視」は別の論点である。主な要点は「垂直偏位では上方に位置する眼を基準にhypertropiaと表現する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「外転神経麻痺の特徴」の要点を示している。右眼外転制限と右方視で増悪する水平複視。右外直筋が弱くなるため右眼が内方偏位し、右方視で像のずれが大きくなる。

ウ：「回旋斜視」は別の論点である。主な要点は「cyclotropiaは眼球が視軸周りに内旋または外旋した顕性偏位である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「Duane眼球後退症候群」は別の論点である。主な要点は「外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0029 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。」

ア．上下斜視
イ．Duane眼球後退症候群
ウ．V型斜視
エ．滑車神経麻痺の特徴

答え・解説 正答：イ

ア：「上下斜視」は別の論点である。主な要点は「垂直偏位では上方に位置する眼を基準にhypertropiaと表現する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「Duane眼球後退症候群」の要点を示している。外直筋の異常神経支配により内転時に内外直筋が共同収縮し、眼球後退を生じる。
ウ：「V型斜視」は別の論点である。主な要点は「V型では上方視で外方開大する偏位パターンを示す。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「滑車神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0030 斜視の基礎と病型 > 上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型 | 難易度：応用

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。」

ア．A型斜視
イ．V型斜視
ウ．滑車神経麻痺の特徴
エ．Brown症候群

答え・解説 正答：エ

ア：「A型斜視」は別の論点である。主な要点は「A型では上方視と下方視で水平偏位量に系統的差があり、下方視側で相対的に外方開大する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「V型斜視」は別の論点である。主な要点は「V型では上方視で外方開大する偏位パターンを示す。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「滑車神経麻痺の特徴」は別の論点である。主な要点は「上斜筋麻痺では患眼の上方偏位・外旋が生じ、頭部傾斜による変化が手掛かりとなる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「Brown症候群」の要点を示している。上斜筋腱-滑車複合体の機械的拘束により、内転した眼の上転が制限される。

総合解説：この問題は「上下・回旋・A-V型・麻痺性・特殊型」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0031弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：標準

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「弱視は視覚発達期の異常入力に関連する発達性視機能障害で、診断前には屈折矯正と器質疾患の除外が必要である。」

ア．crowding現象

イ．弱視で両眼視機能低下が起こること

ウ．弱視を定義

エ．視覚感受性期

0032弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「視覚系が発達途中で、異常入力の影響を受けやすい感受性期があるため。幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」

ア．crowding現象

イ．弱視で両眼視機能低下が起こること

ウ．弱視診断で器質疾患を除外

エ．視覚感受性期

答え・解説 正答：ウ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「弱視で両眼視機能低下が起こること」は別の論点である。主な要点は「左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「弱視を定義」の要点を示している。弱視は視覚発達期の異常入力に関連する発達性視機能障害で、診断前には屈折矯正と器質疾患の除外が必要である。

エ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：エ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「弱視で両眼視機能低下が起こること」は別の論点である。主な要点は「左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「弱視診断で器質疾患を除外」は別の論点である。主な要点は「視力低下を説明し得る眼疾患や神経疾患がないか確認したうえで弱視を診断する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「視覚感受性期」の要点を示している。視覚系が発達途中で、異常入力の影響を受けやすい感受性期があるため。幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0033弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「異常な両眼入力や持続的ぼけ、視軸遮断が視覚発達を阻害する。」

ア．crowding現象
イ．視覚感受性期
ウ．弱視の主な原因を列挙
エ．弱視で両眼視機能低下が起こること

答え・解説 正答：ウ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「弱視の主な原因を列挙」の要点を示している。異常な両眼入力や持続的ぼけ、視軸遮断が視覚発達を阻害する。

エ：「弱視で両眼視機能低下が起こること」は別の論点である。主な要点は「左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0034弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「持続する眼位ずれに対し複視・混乱を避ける抑制が生じ、偏位眼の視覚発達が阻害される。」

ア．片眼性弱視で抑制の関与
イ．crowding現象
ウ．視覚感受性期
エ．弱視を公衆衛生的に捉えられる

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「片眼性弱視で抑制の関与」の要点を示している。持続する眼位ずれに対し複視・混乱を避ける抑制が生じ、偏位眼の視覚発達が阻害される。

イ：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「弱視を公衆衛生的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「弱視は適切なスクリーニングと早期治療で永久的視力低下を減らせる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0035弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：基礎

「弱視の定義・病因」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」

ア．弱視を定義
イ．視覚感受性期
ウ．弱視の主な原因を列挙
エ．crowding現象

答え・解説 正答：エ

ア：「弱視を定義」は別の論点である。主な要点は「弱視は視覚発達期の異常入力に関連する発達性視機能障害で、診断前には屈折矯正と器質疾患の除外が必要である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「弱視の主な原因を列挙」は別の論点である。主な要点は「異常な両眼入力や持続的ぼけ、視軸遮断が視覚発達を阻害する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「crowding現象」の要点を示している。弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0036弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：応用

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。」

ア．crowding現象
イ．弱視で両眼視機能低下が起ること
ウ．視覚感受性期
エ．弱視の予後因子

答え・解説 正答：イ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「弱視で両眼視機能低下が起ること」の要点を示している。左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。
ウ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「弱視の予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚可塑性が高い時期に原因を取り除き、明瞭な視覚入力を与えるほど改善しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0037弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：応用

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「視力低下を説明し得る眼疾患や神経疾患がないか確認したうえで弱視を診断する。」

ア．弱視診断で器質疾患を除外
イ．crowding現象
ウ．視覚感受性期
エ．両眼性弱視の原因

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「弱視診断で器質疾患を除外」の要点を示している。視力低下を説明し得る眼疾患や神経疾患がないか確認したうえで弱視を診断する。
イ：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「両眼性弱視の原因」は別の論点である。主な要点は「両眼に高度でほぼ同程度の屈折異常があると、両眼の像が長期間ばけて視力発達が妨げられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0038弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「視覚可塑性が高い時期に原因を取り除き、明瞭な視覚入力を与えるほど改善しやすい。」

ア．crowding現象
イ．視覚感受性期
ウ．弱視で両眼視機能低下が起こること
エ．弱視の予後因子

答え・解説 正答：エ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ぼけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「弱視で両眼視機能低下が起こること」は別の論点である。主な要点は「左右眼の像質差や斜視があると、両眼融合・立体視の発達も障害され得る。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「弱視の予後因子」の要点を示している。視覚可塑性が高い時期に原因を取り除き、明瞭な視覚入力を与えるほど改善しやすい。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0039弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「両眼に高度でほぼ同程度の屈折異常があると、両眼の像が長期間ばけて視力発達が妨げられる。」

ア．crowding現象

イ．視覚感受性期

ウ．弱視診断で器質疾患を除外

エ．両眼性弱視の原因

0040弱視・小児視能 > 弱視の定義・病因 | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「視覚発達期に斜視・屈折異常・視軸遮断を早期発見して介入する。弱視は適切なスクリーニングと早期治療で永久的視力低下を減らせる。」

ア．弱視を公衆衛生的に捉えられる

イ．crowding現象

ウ．視覚感受性期

エ．片眼性弱視で抑制の関与

答え・解説 正答：エ

ア：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ばけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「弱視診断で器質疾患を除外」は別の論点である。主な要点は「視力低下を説明し得る眼疾患や神経疾患がないか確認したうえで弱視を診断する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「両眼性弱視の原因」の要点を示している。両眼に高度でほぼ同程度の屈折異常があると、両眼の像が長期間ばけて視力発達が妨げられる。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「弱視を公衆衛生的に捉えられる」の要点を示している。視覚発達期に斜視・屈折異常・視軸遮断を早期発見して介入する。弱視は適切なスクリーニングと早期治療で永久的視力低下を減らせる。

イ：「crowding現象」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲の視標から受ける干渉が強く、単一視標より行視標で成績が低下しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「視覚感受性期」は別の論点である。主な要点は「幼少期は視覚皮質の可塑性が高く、ばけ・遮断・眼位ずれが発達へ強く影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「片眼性弱視で抑制の関与」は別の論点である。主な要点は「持続する眼位ずれに対し複視・混乱を避ける抑制が生じ、偏位眼の視覚発達が阻害される。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視の定義・病因」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0041弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：応用

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。

「視覚発達期の恒常性片眼斜視では、複視・混乱を避けるため偏位眼の像が抑制され、その眼の視力発達が妨げられることがある。」

ア．光学的矯正単独の効果
イ．斜視弱視
ウ．健眼遮閉の適応
エ．治療反応から次の計画を立てられる

0042弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：応用

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。

「両眼の像質差が続くと良好像の眼が優位となり、ぼけた眼の視覚発達が遅れる。」

ア．治療反応から次の計画を立てられる
イ．健眼遮閉の適応
ウ．光学的矯正単独の効果
エ．不同視弱視

答え・解説 正答：イ

ア：「光学的矯正単独の効果」は別の論点である。主な要点は「屈折ぼけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「斜視弱視」の要点を示している。視覚発達期の恒常性片眼斜視では、複視・混乱を避けるため偏位眼の像が抑制され、その眼の視力発達が妨げられることがある。

ウ：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「治療反応から次の計画を立てられる」は別の論点である。主な要点は「弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：エ

ア：「治療反応から次の計画を立てられる」は別の論点である。主な要点は「弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「光学的矯正単独の効果」は別の論点である。主な要点は「屈折ぼけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「不同視弱視」の要点を示している。両眼の像質差が続くと良好像の眼が優位となり、ぼけた眼の視覚発達が遅れる。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0043弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：標準

「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「遠視性不同視では遠方・近方とも片眼のぼけが持続しやすく、弱視リスクが高い。」
ア．治療反応から次の計画を立てられる
イ．小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由
ウ．近視性不同視と遠視性不同視の影響
エ．健眼遮閉の適応

0044弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「両眼に高度遠視や高度乱視などが未矯正で持続する。両眼の網膜像が長期間不鮮明だと両眼視力発達が遅れる。」
ア．屈折異常弱視
イ．健眼遮閉の適応
ウ．atropine penalizationの考え方
エ．光学的矯正単独の効果

答え・解説 正答：ウ

ア：「治療反応から次の計画を立てられる」は別の論点である。主な要点は「弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下測定だけでは遠視を過小評価し得る。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「近視性不同視と遠視性不同視の影響」の要点を示している。遠視性不同視では遠方・近方とも片眼のぼけが持続しやすく、弱視リスクが高い。
エ：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「屈折異常弱視」の要点を示している。両眼に高度遠視や高度乱視などが未矯正で持続する。両眼の網膜像が長期間不鮮明だと両眼視力発達が遅れる。
イ：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「atropine penalizationの考え方」は別の論点である。主な要点は「健眼へatropineを使用して近見を中心にぼかし、弱視眼使用を促す。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「光学的矯正単独の効果」は別の論点である。主な要点は「屈折ぼけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0045弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：基礎

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「小児は調節力が強く、非調節麻痺下測定だけでは遠視を過小評価し得る。」

ア．健眼遮閉の適応
イ．小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由
ウ．治療反応から次の計画を立てられる
エ．光学的矯正単独の効果

答え・解説 正答：イ

ア：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由」の要点を示している。小児は調節力が強く、非調節麻痺下測定だけでは遠視を過小評価し得る。
ウ：「治療反応から次の計画を立てられる」は別の論点である。主な要点は「弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「光学的矯正単独の効果」は別の論点である。主な要点は「屈折ばけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0046弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「屈折ばけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」

ア．光学的矯正単独の効果
イ．斜視と不同視が併存する弱視
ウ．斜視弱視
エ．屈折異常弱視

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「光学的矯正単独の効果」の要点を示している。屈折ばけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。
イ：「斜視と不同視が併存する弱視」は別の論点である。主な要点は「弱視は単一原因とは限らず、斜視・不同視などが複合して発症する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「斜視弱視」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の恒定性片眼斜視では、複視・混乱を避けるため偏位眼の像が抑制され、その眼の視力発達が妨げられることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「屈折異常弱視」は別の論点である。主な要点は「両眼の網膜像が長期間不鮮明だと両眼視力発達が遅れる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0047弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「弱視は単一原因とは限らず、斜視・不同視などが複合して発症する。」

ア．健眼遮閉の適応

イ．光学的矯正単独の効果

ウ．斜視と不同視が併存する弱視

エ．atropine penalizationの考え方

答え・解説 正答：ウ

ア：「健眼遮閉の適応」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「光学的矯正単独の効果」は別の論点である。主な要点は「屈折ばけを除くだけで視力が改善する例があり、光学的矯正は治療の基盤となる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「斜視と不同視が併存する弱視」の要点を示している。弱視は単一原因とは限らず、斜視・不同視などが複合して発症する。

エ：「atropine penalizationの考え方」は別の論点である。主な要点は「健眼へatropineを使用して近見を中心にぼかし、弱視眼使用を促す。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0048弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なものはどれか。
「健眼遮閉。健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。」

ア．小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由

イ．斜視と不同視が併存する弱視

ウ．健眼遮閉の適応

エ．不同視弱視

答え・解説 正答：ウ

ア：「小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下測定だけでは遠視を過小評価し得る。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「斜視と不同視が併存する弱視」は別の論点である。主な要点は「弱視は単一原因とは限らず、斜視・不同視などが複合して発症する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「健眼遮閉の適応」の要点を示している。健眼遮閉。健眼を一定時間遮閉し、弱視眼の使用を促して視覚発達を刺激する。

エ：「不同視弱視」は別の論点である。主な要点は「両眼の像質差が続くと良好像の眼が優位となり、ぼけた眼の視覚発達が遅れる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0049弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「健眼へatropineを使用して近見を中心にぼかし、弱視眼使用を促す。」

ア．不同視弱視

イ．atropine penalizationの考え方

ウ．斜視と不同視が併存する弱視

エ．斜視弱視

0050弱視・小児視能 > 斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。」

ア．不同視弱視

イ．斜視弱視

ウ．治療反応から次の計画を立てられる

エ．小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由

答え・解説 正答：イ

ア：「不同視弱視」は別の論点である。主な要点は「両眼の像質差が続くと良好像の眼が優位となり、ぼけた眼の視覚発達が遅れる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「atropine penalizationの考え方」の要点を示している。健眼へatropineを使用して近見を中心にぼかし、弱視眼使用を促す。

ウ：「斜視と不同視が併存する弱視」は別の論点である。主な要点は「弱視は単一原因とは限らず、斜視・不同視などが複合して発症する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視弱視」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の恒常性片眼斜視では、複視・混乱を避けるため偏位眼の像が抑制され、その眼の視力発達が妨げられることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ウ

ア：「不同視弱視」は別の論点である。主な要点は「両眼の像質差が続くと良好像の眼が優位となり、ぼけた眼の視覚発達が遅れる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「斜視弱視」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の恒常性片眼斜視では、複視・混乱を避けるため偏位眼の像が抑制され、その眼の視力発達が妨げられることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「治療反応から次の計画を立てられる」の要点を示している。弱視は光学的矯正だけでも改善するため、反応を見ずに過剰治療を急ぐ必要はない。

エ：「小児弱視で調節麻痺下屈折が必要な理由」は別の論点である。主な要点は「小児は調節力が強く、非調節麻痺下測定だけでは遠視を過小評価し得る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「斜視弱視・不同視弱視・屈折異常弱視」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0051弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：標準

「形態覚遮断弱視・小児視能特性」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」

ア．小児で調節麻痺下屈折を優先

イ．形態覚遮断弱視

ウ．小児検査で協力を引き出す工夫

エ．preferential lookingの原理

0052弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。「瞳孔を覆って視軸を遮断し、弱視を生じること。視覚発達期に視軸が長期間遮られると形態覚遮断弱視を生じ得る。」

ア．小児検査で協力を引き出す工夫

イ．preferential lookingの原理

ウ．小児視力検査でcrowdingを考慮

エ．眼瞼下垂による遮断弱視リスク

答え・解説 正答：イ

ア：「小児で調節麻痺下屈折を優先」は別の論点である。主な要点は「調節麻痺下屈折は小児の真の屈折状態を把握するうえで重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「形態覚遮断弱視」の要点を示している。視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。

ウ：「小児検査で協力を引き出す工夫」は別の論点である。主な要点は「年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：エ

ア：「小児検査で協力を引き出す工夫」は別の論点である。主な要点は「年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「小児視力検査でcrowdingを考慮」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲輪郭の影響が強く、単一視標で視力を過大評価することがある。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「眼瞼下垂による遮断弱視リスク」の要点を示している。瞳孔を覆って視軸を遮断し、弱視を生じること。視覚発達期に視軸が長期間遮られると形態覚遮断弱視を生じ得る。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0053弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「片眼性遮断は強い左右差を生み、治療が遅れるほど重度弱視となりやすい。」

ア．形態覚遮断弱視
イ．小児検査で協力を引き出す工夫
ウ．片眼先天的白内障の緊急性
エ．小児視力検査でcrowdingを考慮

答え・解説 正答：ウ

ア：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「小児検査で協力を引き出す工夫」は別の論点である。主な要点は「年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「片眼先天的白内障の緊急性」の要点を示している。片眼性遮断は強い左右差を生み、治療が遅れるほど重度弱視となりやすい。
エ：「小児視力検査でcrowdingを考慮」は別の論点である。主な要点は「弱視では周囲輪郭の影響が強く、単一視標で視力を過大評価することがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0054弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「乳幼児では言語回答を前提にせず、行動反応や視覚選好を利用して評価する。」

ア．preferential lookingの原理
イ．乳幼児視力評価の考え方
ウ．小児で白色瞳孔を緊急所見と判断
エ．小児で調節麻痺下屈折を優先

答え・解説 正答：イ

ア：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「乳幼児視力評価の考え方」の要点を示している。乳幼児では言語回答を前提にせず、行動反応や視覚選好を利用して評価する。
ウ：「小児で白色瞳孔を緊急所見と判断」は別の論点である。主な要点は「白色瞳孔は先天的白内障や網膜芽細胞腫などの重要所見で、視覚発達や生命予後に関わることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「小児で調節麻痺下屈折を優先」は別の論点である。主な要点は「調節麻痺下屈折は小児の真の屈折状態を把握するうえで重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0055弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：応用

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」

ア．形態覚遮断弱視
イ．小児検査で協力を引き出す工夫
ウ．preferential lookingの原理
エ．小児で白色瞳孔を緊急所見と判断

答え・解説 正答：ウ

ア：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「小児検査で協力を引き出す工夫」は別の論点である。主な要点は「年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「preferential lookingの原理」の要点を示している。乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。
エ：「小児で白色瞳孔を緊急所見と判断」は別の論点である。主な要点は「白色瞳孔は先天白内障や網膜芽細胞腫などの重要所見で、視覚発達や生命予後に関わることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0056弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なものはどれか。
「crowdingの影響が考えられる。弱視では周囲輪郭の影響が強く、単一視標で視力を過大評価することがある。」

ア．片眼先白内障の緊急性
イ．眼瞼下垂による遮断弱視リスク
ウ．小児視力検査でcrowdingを考慮
エ．形態覚遮断弱視

答え・解説 正答：ウ

ア：「片眼先白内障の緊急性」は別の論点である。主な要点は「片眼性遮断は強い左右差を生み、治療が遅れるほど重度弱視となりやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「眼瞼下垂による遮断弱視リスク」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期に視軸が長期間遮られると形態覚遮断弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「小児視力検査でcrowdingを考慮」の要点を示している。crowdingの影響が考えられる。弱視では周囲輪郭の影響が強く、単一視標で視力を過大評価することがある。
エ：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0057弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。」

ア．小児検査で協力を引き出す工夫
イ．片眼先天白内障の緊急性
ウ．形態覚遮断弱視
エ．preferential lookingの原理

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「小児検査で協力を引き出す工夫」の要点を示している。年齢に応じたコミュニケーションは協力度と検査信頼性を高める。
イ：「片眼先天白内障の緊急性」は別の論点である。主な要点は「片眼性遮断は強い左右差を生み、治療が遅れるほど重度弱視となりやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0058弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「調節麻痺下屈折は小児の真の屈折状態を把握するうえで重要である。」

ア．形態覚遮断弱視
イ．preferential lookingの原理
ウ．小児で調節麻痺下屈折を優先
エ．乳幼児視力評価の考え方

答え・解説 正答：ウ

ア：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「小児で調節麻痺下屈折を優先」の要点を示している。調節麻痺下屈折は小児の真の屈折状態を把握するうえで重要である。
エ：「乳幼児視力評価の考え方」は別の論点である。主な要点は「乳幼児では言語回答を前提にせず、行動反応や視覚選好を利用して評価する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0059弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：応用

「形態覚遮断弱視・小児視能特性」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「幼児は片眼視力低下を訴えないことがあり、スクリーニングが早期発見に重要である。」

ア．preferential lookingの原理
イ．形態覚遮断弱視
ウ．片眼先天白内障の緊急性
エ．小児の視覚スクリーニングの意義

答え・解説 正答：エ

ア：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「形態覚遮断弱視」は別の論点である。主な要点は「視軸が遮断され明瞭な像が網膜へ届かないと、重い弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「片眼先天白内障の緊急性」は別の論点である。主な要点は「片眼性遮断は強い左右差を生み、治療が遅れるほど重度弱視となりやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「小児の視覚スクリーニングの意義」の要点を示している。幼児は片眼視力低下を訴えないことがあり、スクリーニングが早期発見に重要である。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0060弱視・小児視能 > 形態覚遮断弱視・小児視能特性 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「先天白内障や網膜芽細胞腫などを念頭に速やかに精査へつなく。白色瞳孔は先天白内障や網膜芽細胞腫などの重要所見で、視覚発達や生命予後に関わることがある。」

ア．preferential lookingの原理
イ．小児で白色瞳孔を緊急所見と判断
ウ．眼瞼下垂による遮断弱視リスク
エ．乳幼児視力評価の考え方

答え・解説 正答：イ

ア：「preferential lookingの原理」は別の論点である。主な要点は「乳児がパターン刺激を選択的に注視する反応から視覚分解能を推定する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「小児で白色瞳孔を緊急所見と判断」の要点を示している。先天白内障や網膜芽細胞腫などを念頭に速やかに精査へつなく。白色瞳孔は先天白内障や網膜芽細胞腫などの重要所見で、視覚発達や生命予後に関わることがある。
ウ：「眼瞼下垂による遮断弱視リスク」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期に視軸が長期間遮られると形態覚遮断弱視を生じ得る。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「乳幼児視力評価の考え方」は別の論点である。主な要点は「乳幼児では言語回答を前提にせず、行動反応や視覚選好を利用して評価する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「形態覚遮断弱視・小児視能特性」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0061

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：応用

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「視能評価は単一検査値ではなく、感覚系と運動系、生活上の困難を合わせて捉える。」

ア．代償頭位

イ．遠見と近見の眼位を比較

ウ．病歴聴取の重要項目

エ．視能評価の目的

答え・解説

正答：エ

ア：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「視能評価の目的」の要点を示している。視能評価は単一検査値ではなく、感覚系と運動系、生活上の困難を合わせて捉える。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0062

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「視能訓練学では感覚・運動性視機能障害を評価し、必要な矯正・訓練・経過管理を行う。」

ア．視能訓練の対象

イ．代償頭位

ウ．ベースライン評価の意義

エ．遠見と近見の眼位を比較

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「視能訓練の対象」の要点を示している。視能訓練学では感覚・運動性視機能障害を評価し、必要な矯正・訓練・経過管理を行う。

イ：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「ベースライン評価の意義」は別の論点である。主な要点は「開始前値がなければ改善・悪化・自然変動を評価しにくい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0063

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「斜視は弱視・屈折異常・運動障害・感覚適応を伴うため多面的評価が必要である。」

ア．代償頭位

イ．遠見と近見の眼位を比較

ウ．病歴聴取の重要項目

エ．斜視評価の基本構成

0064

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：応用

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「左右別視力、調節麻痺下屈折、眼位・固視、前眼部・眼底。弱視の原因と器質疾患除外のため、屈折・眼位・固視・眼底を総合評価する。」

ア．代償頭位

イ．弱視評価の基本構成

ウ．病歴聴取の重要項目

エ．遠見と近見の眼位を比較

答え・解説

正答：エ

ア：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「斜視評価の基本構成」の要点を示している。斜視は弱視・屈折異常・運動障害・感覚適応を伴うため多面的評価が必要である。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「弱視評価の基本構成」の要点を示している。左右別視力、調節麻痺下屈折、眼位・固視、前眼部・眼底。弱視の原因と器質疾患除外のため、屈折・眼位・固視・眼底を総合評価する。

ウ：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0065

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：基礎

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」

ア．生活機能を視能評価

イ．代償頭位

ウ．遠見と近見の眼位を比較

エ．病歴聴取の重要項目

答え・解説

正答：エ

ア：「生活機能を視能評価」は別の論点である。主な要点は「治療目標は患者の生活上の困難を軽減することも含むため、活動・参加への影響を確認する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「病歴聴取の重要項目」の要点を示している。発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0066

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」

ア．病歴聴取の重要項目

イ．斜視評価の基本構成

ウ．生活機能を視能評価

エ．遠見と近見の眼位を比較

答え・解説

正答：エ

ア：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「斜視評価の基本構成」は別の論点である。主な要点は「斜視は弱視・屈折異常・運動障害・感覚適応を伴うため多面的評価が必要である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「生活機能を視能評価」は別の論点である。主な要点は「治療目標は患者の生活上の困難を軽減することも含むため、活動・参加への影響を確認する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「遠見と近見の眼位を比較」の要点を示している。遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0067

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：標準

「対象となる視能障害・視能評価」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」

ア．病歴聴取の重要項目

イ．代償頭位

ウ．両眼視評価の意義

エ．弱視評価の基本構成

0068

視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「現在の両眼視機能と治療後に期待できる機能の基準を把握するため。治療目標や予後判断には眼位だけでなく感覚機能の残存程度が重要である。」

ア．代償頭位

イ．遠見と近見の眼位を比較

ウ．病歴聴取の重要項目

エ．両眼視評価の意義

答え・解説

正答：イ

ア：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「代償頭位」の要点を示している。異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。
ウ：「両眼視評価の意義」は別の論点である。主な要点は「治療目標や予後判断には眼位だけでなく感覚機能の残存程度が重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「弱視評価の基本構成」は別の論点である。主な要点は「弱視の原因と器質疾患除外のため、屈折・眼位・固視・眼底を総合評価する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「両眼視評価の意義」の要点を示している。現在の両眼視機能と治療後に期待できる機能の基準を把握するため。治療目標や予後判断には眼位だけでなく感覚機能の残存程度が重要である。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0069 視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「治療目標は患者の生活上の困難を軽減することを含むため、活動・参加への影響を確認する。」

ア．病歴聴取の重要項目
イ．代償頭位
ウ．生活機能を視能評価
エ．遠見と近見の眼位を比較

答え・解説 正答：ウ

ア：「病歴聴取の重要項目」は別の論点である。主な要点は「発症時期や既往治療は病型・予後・今後の計画へ影響する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「生活機能を視能評価」の要点を示している。治療目標は患者の生活上の困難を軽減することを含むため、活動・参加への影響を確認する。
エ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0070 視能評価・計画・心理 > 対象となる視能障害・視能評価 | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「開始前値がなければ改善・悪化・自然変動を評価しにくい。」

ア．代償頭位
イ．視能訓練の対象
ウ．ベースライン評価の意義
エ．遠見と近見の眼位を比較

答え・解説 正答：ウ

ア：「代償頭位」は別の論点である。主な要点は「異常頭位は複視を減らす代償であり、麻痺筋やnull point推定の手掛かりになる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「視能訓練の対象」は別の論点である。主な要点は「視能訓練学では感覚・運動性視機能障害を評価し、必要な矯正・訓練・経過管理を行う。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「ベースライン評価の意義」の要点を示している。開始前値がなければ改善・悪化・自然変動を評価しにくい。
エ：「遠見と近見の眼位を比較」は別の論点である。主な要点は「遠近差は高AC/A内斜視や外斜視型の分類に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「対象となる視能障害・視能評価」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0071

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「斜視・弱視治療は個人差が大きく、同じ診断でも優先目標が異なる。」

ア．治療目標

イ．長期フォローの意義

ウ．予後因子

エ．計画を共有してアドヒアランスを高められる

0072

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「屈折矯正と弱視治療を適切に行いながら眼位治療を計画する。視力発達を確保することは両眼視機能や手術後機能にも影響する。」

ア．予後因子

イ．適応判定

ウ．治療優先順位

エ．計画を共有してアドヒアランスを高められる

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「治療目標」の要点を示している。斜視・弱視治療は個人差が大きく、同じ診断でも優先目標が異なる。
イ：「長期フォローの意義」は別の論点である。主な要点は「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「計画を共有してアドヒアランスを高められる」は別の論点である。主な要点は「計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「適応判定」は別の論点である。主な要点は「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「治療優先順位」の要点を示している。屈折矯正と弱視治療を適切に行いながら眼位治療を計画する。視力発達を確保することは両眼視機能や手術後機能にも影響する。
エ：「計画を共有してアドヒアランスを高められる」は別の論点である。主な要点は「計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0073

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」

ア．長期フォローの意義

イ．適応判定

ウ．治療停滞時に計画を修正

エ．予後因子

答え・解説

正答：イ

ア：「長期フォローの意義」は別の論点である。主な要点は「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「適応判定」の要点を示している。訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。
ウ：「治療停滞時に計画を修正」は別の論点である。主な要点は「治療抵抗性ではアドヒアランス、屈折、病型、他疾患を再評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0074

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」

ア．治療停滞時に計画を修正

イ．患者中心のゴール

ウ．予後因子

エ．適応判定

答え・解説

正答：ウ

ア：「治療停滞時に計画を修正」は別の論点である。主な要点は「治療抵抗性ではアドヒアランス、屈折、病型、他疾患を再評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「患者中心のゴール」は別の論点である。主な要点は「患者の困りごとに合わせ、プリズム等を含め症状改善を重視する計画が合理的である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「予後因子」の要点を示している。視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。
エ：「適応判定」は別の論点である。主な要点は「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0075

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：基礎

「目標・計画・適応・予後・効果判定」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。

「眼位だけでなく感覚機能・症状・QOLを多面的に評価する。」

ア．計画を共有してアドヒアランスを高められる

イ．治療効果判定の指標

ウ．予後因子

エ．長期フォローの意義

0076

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。

「同じ条件の片眼視力を経時比較し、健眼視力も確認する。弱視眼の改善に加えて逆弱視の有無をみるため健眼も追跡する。」

ア．計画を共有してアドヒアランスを高められる

イ．予後因子

ウ．弱視治療の効果判定

エ．長期フォローの意義

答え・解説

正答：イ

ア：「計画を共有してアドヒアランスを高められる」は別の論点である。主な要点は「計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「治療効果判定の指標」の要点を示している。眼位だけでなく感覚機能・症状・QOLを多面的に評価する。

ウ：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「長期フォローの意義」は別の論点である。主な要点は「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：「計画を共有してアドヒアランスを高められる」は別の論点である。主な要点は「計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「弱視治療の効果判定」の要点を示している。同じ条件の片眼視力を経時比較し、健眼視力も確認する。弱視眼の改善に加えて逆弱視の有無をみるため健眼も追跡する。

エ：「長期フォローの意義」は別の論点である。主な要点は「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0077

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：基礎

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「治療抵抗性ではアドヒアランス、屈折、病型、他疾患を再評価する。」

ア．予後因子

イ．患者中心のゴール

ウ．適応判定

エ．治療停滞時に計画を修正

答え・解説

正答：エ

ア：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「患者中心のゴール」は別の論点である。主な要点は「患者の困りごとに合わせ、プリズム等を含め症状改善を重視する計画が合理的である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「適応判定」は別の論点である。主な要点は「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「治療停滞時に計画を修正」の要点を示している。治療抵抗性ではアドヒアランス、屈折、病型、他疾患を再評価する。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0078

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」

ア．治療目標

イ．適応判定

ウ．計画を共有してアドヒアランスを高められる

エ．長期フォローの意義

答え・解説

正答：エ

ア：「治療目標」は別の論点である。主な要点は「斜視・弱視治療は個人差が大きく、同じ診断でも優先目標が異なる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「適応判定」は別の論点である。主な要点は「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「計画を共有してアドヒアランスを高められる」は別の論点である。主な要点は「計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「長期フォローの意義」の要点を示している。小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0079

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：応用

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「患者の困りごとに合わせ、プリズム等を含め症状改善を重視する計画が合理的である。」

ア．患者中心のゴール

イ．治療停滞時に計画を修正

ウ．予後因子

エ．適応判定

0080

視能評価・計画・心理 > 目標・計画・適応・予後・効果判定 | 難易度：応用

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「治療目的、具体的実施方法、予想期間、評価時期を分かりやすく共有する。計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。」

ア．治療効果判定の指標

イ．長期フォローの意義

ウ．計画を共有してアドヒアランスを高められる

エ．弱視治療の効果判定

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「患者中心のゴール」の要点を示している。患者の困りごとに合わせ、プリズム等を含め症状改善を重視する計画が合理的である。

イ：「治療停滞時に計画を修正」は別の論点である。主な要点は「治療抵抗性ではアドヒアランス、屈折、病型、他疾患を再評価する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「予後因子」は別の論点である。主な要点は「視覚発達期の長期偏位や未治療弱視は機能予後を悪化させる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「適応判定」は別の論点である。主な要点は「訓練は全ての斜視・複視に有効ではなく、病型や原因に応じて適応を選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：「治療効果判定の指標」は別の論点である。主な要点は「眼位だけでなく感覚機能・症状・QOLを多面的に評価する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「長期フォローの意義」は別の論点である。主な要点は「小児では視覚発達と屈折状態が変化し、成人でも残余複視や再発を生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「計画を共有してアドヒアランスを高められる」の要点を示している。治療目的、具体的実施方法、予想期間、評価時期を分かりやすく共有する。計画が理解されるほど家庭での眼鏡・遮閉継続を得やすい。

エ：「弱視治療の効果判定」は別の論点である。主な要点は「弱視眼の改善に加えて逆弱視の有無をみるため健眼も追跡する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「目標・計画・適応・予後・効果判定」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0081

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」

ア．斜視の心理社会的影響

イ．保護者の不安

ウ．多職種支援の必要性

エ．小児へ年齢に応じて説明

答え・解説

正答：エ

ア：「斜視の心理社会的影響」は別の論点である。主な要点は「斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「保護者の不安」は別の論点である。主な要点は「健眼遮閉は弱視眼使用を促す治療で、定期的に両眼視力を確認して安全に調整する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「多職種支援の必要性」は別の論点である。主な要点は「視機能治療だけでは解決しない心理社会的問題には多職種支援が有用である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「小児へ年齢に応じて説明」の要点を示している。発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0082

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「健眼遮閉は弱視眼使用を促す治療で、定期的に両眼視力を確認して安全に調整する。」

ア．治療アドヒアランス

イ．保護者の不安

ウ．小児へ年齢に応じて説明

エ．家族へ現実的な予後説明が

答え・解説

正答：イ

ア：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「保護者の不安」の要点を示している。健眼遮閉は弱視眼使用を促す治療で、定期的に両眼視力を確認して安全に調整する。
ウ：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「家族へ現実的な予後説明が」は別の論点である。主な要点は「現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0083

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：標準

「小児・患者・家族の心理とケア」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「楽しい活動と結び付けると弱視眼使用と治療継続を促しやすい。」

ア．遮閉治療への抵抗
イ．保護者と子どもの双方をケア
ウ．患者の主観的困難を尊重
エ．斜視の心理社会的影響

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「遮閉治療への抵抗」の要点を示している。楽しい活動と結び付けると弱視眼使用と治療継続を促しやすい。
イ：「保護者と子どもの双方をケア」は別の論点である。主な要点は「治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「患者の主観的困難を尊重」は別の論点である。主な要点は「数値上小さい偏位でも複視や作業能力への影響は大きいことがある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「斜視の心理社会的影響」は別の論点である。主な要点は「斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0084

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：応用

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「責めずに実施できなかった理由を聞き、生活に合わせて改善策を考える。治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」

ア．斜視の心理社会的影響
イ．治療アドヒアランス
ウ．小児へ年齢に応じて説明
エ．家族へ現実的な予後説明が

答え・解説

正答：イ

ア：「斜視の心理社会的影響」は別の論点である。主な要点は「斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「治療アドヒアランス」の要点を示している。責めずに実施できなかった理由を聞き、生活に合わせて改善策を考える。治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。
ウ：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「家族へ現実的な予後説明が」は別の論点である。主な要点は「現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0085

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：基礎

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。」

ア．小児へ年齢に応じて説明

イ．治療アドヒアランス

ウ．保護者と子どもの双方をケア

エ．斜視の心理社会的影響

答え・解説

正答：エ

ア：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「保護者と子どもの双方をケア」は別の論点である。主な要点は「治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「斜視の心理社会的影響」の要点を示している。斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0086

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「数値上小さい偏位でも複視や作業能力への影響は大きいことがある。」

ア．患者の主観的困難を尊重

イ．治療アドヒアランス

ウ．小児へ年齢に応じて説明

エ．遮閉治療への抵抗

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「患者の主観的困難を尊重」の要点を示している。数値上小さい偏位でも複視や作業能力への影響は大きいことがある。

イ：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「遮閉治療への抵抗」は別の論点である。主な要点は「楽しい活動と結び付けると弱視眼使用と治療継続を促しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0087

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：応用

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。」

ア．家族へ現実的な予後説明が

イ．治療アドヒアランス

ウ．多職種支援の必要性

エ．保護者と子どもの双方をケア

0088

視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「本人の気持ちを聞き、機能・整容両面の治療選択と必要な心理支援を検討する。思春期は自己像や対人関係への影響が大きく、医療者が心理社会的負担を認識することが重要である。」

ア．小児へ年齢に応じて説明

イ．思春期の心理的負担

ウ．治療アドヒアランス

エ．保護者と子どもの双方をケア

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「家族へ現実的な予後説明が」の要点を示している。現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。
イ：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「多職種支援の必要性」は別の論点である。主な要点は「視機能治療だけでは解決しない心理社会的問題には多職種支援が有用である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「保護者と子どもの双方をケア」は別の論点である。主な要点は「治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「思春期の心理的負担」の要点を示している。本人の気持ちを聞き、機能・整容両面の治療選択と必要な心理支援を検討する。思春期は自己像や対人関係への影響が大きく、医療者が心理社会的負担を認識することが重要である。
ウ：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「保護者と子どもの双方をケア」は別の論点である。主な要点は「治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0089 視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。」

ア．家族へ現実的な予後説明が

イ．小児へ年齢に応じて説明

ウ．保護者と子どもの双方をケア

エ．斜視の心理社会的影響

答え・解説 正答：ウ

ア：「家族へ現実的な予後説明が」は別の論点である。主な要点は「現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「保護者と子どもの双方をケア」の要点を示している。治療を実行する家族と実際に治療を受ける子どもの双方の理解が重要である。

エ：「斜視の心理社会的影響」は別の論点である。主な要点は「斜視は視機能だけでなく社会的視線や自己イメージへ影響し、QOLを低下させることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0090 視能評価・計画・心理 > 小児・患者・家族の心理とケア | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「視機能治療だけでは解決しない心理社会的問題には多職種支援が有用である。」

ア．家族へ現実的な予後説明が

イ．小児へ年齢に応じて説明

ウ．多職種支援の必要性

エ．治療アドヒアランス

答え・解説 正答：ウ

ア：「家族へ現実的な予後説明が」は別の論点である。主な要点は「現実的な期待設定は術後満足度と長期治療継続に重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「小児へ年齢に応じて説明」は別の論点である。主な要点は「発達段階に合った説明は不安を減らし、検査協力を得やすくする。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「多職種支援の必要性」の要点を示している。視機能治療だけでは解決しない心理社会的問題には多職種支援が有用である。

エ：「治療アドヒアランス」は別の論点である。主な要点は「治療継続には学校・仕事・皮膚刺激・子どもの抵抗など実際の障壁を把握することが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「小児・患者・家族の心理とケア」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0091

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：標準

「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。

「遠視矯正により調節要求と調節性輻湊を減らし、眼位改善を図る。」

ア．Fresnel prismの特徴

イ．屈折矯正を斜視治療

ウ．小児進行近視に対する薬理学的管理

エ．斜視手術のrecession

0092

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。

「プリズム眼鏡。プリズムは像を偏位させ、眼球運動を減らした状態で両眼単一視を得やすくする。」

ア．プリズム治療の適応

イ．小児進行近視に対する薬理学的管理

ウ．斜視手術のrecession

エ．斜視手術のresection

答え・解説

正答：イ

ア：「Fresnel prismの特徴」は別の論点である。主な要点は「Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「屈折矯正を斜視治療」の要点を示している。遠視矯正により調節要求と調節性輻湊を減らし、眼位改善を図る。

ウ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視手術のrecession」は別の論点である。主な要点は「後転術は筋の有効作用を弱める代表的手術である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「プリズム治療の適応」の要点を示している。プリズム眼鏡。プリズムは像を偏位させ、眼球運動を減らした状態で両眼単一視を得やすくする。

イ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「斜視手術のrecession」は別の論点である。主な要点は「後転術は筋の有効作用を弱める代表的手術である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視手術のresection」は別の論点である。主な要点は「切除術は筋の一部を切除して再付着し、牽引力を強める。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0093 視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。」

ア．屈折矯正を斜視治療
イ．治療法を組み合わせで計画
ウ．Fresnel prismの特徴
エ．小児進行近視に対する薬理学的管理

答え・解説 正答：ウ

ア：「屈折矯正を斜視治療」は別の論点である。主な要点は「遠視矯正により調節要求と調節性輻湊を減らし、眼位改善を図る。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「治療法を組み合わせで計画」は別の論点である。主な要点は「複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「Fresnel prismの特徴」の要点を示している。Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。
エ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropinelは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0094 視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「後転術は筋の有効作用を弱める代表的手術である。」

ア．治療法を組み合わせで計画
イ．小児進行近視に対する薬理学的管理
ウ．ボツリヌス毒素治療の副作用
エ．斜視手術のrecession

答え・解説 正答：エ

ア：「治療法を組み合わせで計画」は別の論点である。主な要点は「複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropinelは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「ボツリヌス毒素治療の副作用」は別の論点である。主な要点は「薬剤が近接筋へ拡散すると眼瞼下垂や垂直偏位などが生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「斜視手術のrecession」の要点を示している。後転術は筋の有効作用を弱める代表的手術である。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0095

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：応用

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「切除術は筋の一部を切除して再付着し、牽引力を強める。」

ア．治療法を組み合わせる計画

イ．小児進行近視に対する薬理学的管理

ウ．斜視手術のresection

エ．ボツリヌス毒素治療の副作用

答え・解説

正答：ウ

ア：「治療法を組み合わせる計画」は別の論点である。主な要点は「複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「斜視手術のresection」の要点を示している。切除術は筋の一部を切除して再付着し、牽引力を強める。
エ：「ボツリヌス毒素治療の副作用」は別の論点である。主な要点は「薬剤が近接筋へ拡散すると眼瞼下垂や垂直偏位などが生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0096

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なものはどれか。
「外眼筋手術。光学的・弱視治療後にも残る有意な偏位では、病型・角度・両眼視を考慮して手術を検討する。」

ア．斜視手術の適応

イ．治療法を組み合わせる計画

ウ．Fresnel prismの特徴

エ．小児進行近視に対する薬理学的管理

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「斜視手術の適応」の要点を示している。外眼筋手術。光学的・弱視治療後にも残る有意な偏位では、病型・角度・両眼視を考慮して手術を検討する。
イ：「治療法を組み合わせる計画」は別の論点である。主な要点は「複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「Fresnel prismの特徴」は別の論点である。主な要点は「Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0097

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：基礎

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「ボツリヌス毒素Aは局所的な化学的除神経を起こし、外眼筋作用を一時的に低下させる。」

ア．ボツリヌス毒素治療の機序

イ．小児進行近視に対する薬理学的管理

ウ．Fresnel prismの特徴

エ．斜視手術の適応

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「ボツリヌス毒素治療の機序」の要点を示している。ボツリヌス毒素Aは局所的な化学的除神経を起こし、外眼筋作用を一時的に低下させる。

イ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「Fresnel prismの特徴」は別の論点である。主な要点は「Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視手術の適応」は別の論点である。主な要点は「光学的・弱視治療後にも残る有意な偏位では、病型・角度・両眼視を考慮して手術を検討する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0098

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「薬剤が近接筋へ拡散すると眼瞼下垂や垂直偏位などが生じることがある。」

ア．ボツリヌス毒素治療の副作用

イ．小児進行近視に対する薬理学的管理

ウ．斜視手術のrecession

エ．斜視手術のresection

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「ボツリヌス毒素治療の副作用」の要点を示している。薬剤が近接筋へ拡散すると眼瞼下垂や垂直偏位などが生じることがある。

イ：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropineは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「斜視手術のrecession」は別の論点である。主な要点は「後転術は筋の有効作用を弱める代表的手術である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視手術のresection」は別の論点である。主な要点は「切除術は筋の一部を切除して再付着し、牽引力を強める。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0099

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：応用

「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。

「低濃度atropinelは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」

ア．ボツリヌス毒素治療の機序

イ．治療法を組み合わせる計画

ウ．ボツリヌス毒素治療の副作用

エ．小児進行近視に対する薬理学的管理

0100

視能矯正治療・訓練 > 観血的・光学的・薬理学的視能矯正 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。

「屈折矯正と弱視治療を行い、その後の残余眼位に応じて手術等を検討する。複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」

ア．小児進行近視に対する薬理学的管理

イ．治療法を組み合わせる計画

ウ．Fresnel prismの特徴

エ．斜視手術の適応

答え・解説

正答：エ

ア：「ボツリヌス毒素治療の機序」は別の論点である。主な要点は「ボツリヌス毒素Aは局所的な化学的除神経を起こし、外眼筋作用を一時的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「治療法を組み合わせる計画」は別の論点である。主な要点は「複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「ボツリヌス毒素治療の副作用」は別の論点である。主な要点は「薬剤が近接筋へ拡散すると眼瞼下垂や垂直偏位などが生じることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「小児進行近視に対する薬理学的管理」の要点を示している。低濃度atropinelは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：イ

ア：「小児進行近視に対する薬理学的管理」は別の論点である。主な要点は「低濃度atropinelは小児近視進行と眼軸伸長を抑える目的で用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「治療法を組み合わせる計画」の要点を示している。屈折矯正と弱視治療を行い、その後の残余眼位に応じて手術等を検討する。複数病態では光学的矯正・弱視治療・眼位治療を段階的に組み合わせる。

ウ：「Fresnel prismの特徴」は別の論点である。主な要点は「Fresnel prismは薄く、度数変更や試用がしやすいため変動期の複視管理に有用である。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「斜視手術の適応」は別の論点である。主な要点は「光学的・弱視治療後にも残る有意な偏位では、病型・角度・両眼視を考慮して手術を検討する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「観血的・光学的・薬理学的視能矯正」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0101 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「健眼を一定時間遮閉することで弱視眼の視覚入力を増やし、皮質可塑性を利用する。」

ア．Bangerter filter
イ．屈折矯正単独効果
ウ．逆弱視
エ．遮閉治療の目的

答え・解説 正答：エ

ア：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「屈折矯正単独効果」は別の論点である。主な要点は「光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「逆弱視」は別の論点である。主な要点は「過度の健眼遮閉では健眼側の視覚発達が阻害されることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「遮閉治療の目的」の要点を示している。健眼を一定時間遮閉することで弱視眼の視覚入力を増やし、皮質可塑性を利用する。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0102 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「遮閉量は一律ではなく、重症度と反応、安全性、実行可能性に応じて調整する。」

ア．遮閉時間
イ．Bangerter filter
ウ．atropine penalizationの副作用
エ．屈折矯正単独効果

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「遮閉時間」の要点を示している。遮閉量は一律ではなく、重症度と反応、安全性、実行可能性に応じて調整する。
イ：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「atropine penalizationの副作用」は別の論点である。主な要点は「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「屈折矯正単独効果」は別の論点である。主な要点は「光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0103 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：応用

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「遮閉中に視覚課題を行うと弱視眼を積極的に使用しやすい。」

ア．遮閉中の活動を工夫
イ．Bangerter filter
ウ．家族と治療法
エ．屈折矯正単独効果

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「遮閉中の活動を工夫」の要点を示している。遮閉中に視覚課題を行うと弱視眼を積極的に使用しやすい。
イ：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「家族と治療法」は別の論点である。主な要点は「弱視治療は実施可能性が重要で、複数のpenalization方法から適切なものを選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「屈折矯正単独効果」は別の論点である。主な要点は「光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0104 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なものはどれか。
「逆弱視を疑い、遮閉量を再評価して両眼視力を確認する。過度の健眼遮閉では健眼側の視覚発達が阻害されることがある。」

ア．逆弱視
イ．atropine penalizationの副作用
ウ．Bangerter filter
エ．家族と治療法

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「逆弱視」の要点を示している。逆弱視を疑い、遮閉量を再評価して両眼視力を確認する。過度の健眼遮閉では健眼側の視覚発達が阻害されることがある。
イ：「atropine penalizationの副作用」は別の論点である。主な要点は「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「家族と治療法」は別の論点である。主な要点は「弱視治療は実施可能性が重要で、複数のpenalization方法から適切なものを選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0105 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「健眼へatropineを点眼して調節を抑え、弱視眼を使う機会を増やす。」

ア．家族と治療法
イ．治療中止を段階的に考えられる
ウ．atropine penalization
エ．屈折矯正単独効果

答え・解説 正答：ウ

ア：「家族と治療法」は別の論点である。主な要点は「弱視治療は実施可能性が重要で、複数のpenalization方法から適切なものを選ぶ。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「治療中止を段階的に考えられる」は別の論点である。主な要点は「急な中止後に視力が再低下することがあるため、段階的終了と経過観察が有用である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「atropine penalization」の要点を示している。健眼へatropineを点眼して調節を抑え、弱視眼を使う機会を増やす。
エ：「屈折矯正単独効果」は別の論点である。主な要点は「光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0106 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：応用

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」

ア．逆弱視
イ．atropine penalizationの副作用
ウ．屈折矯正単独効果
エ．治療中止を段階的に考えられる

答え・解説 正答：イ

ア：「逆弱視」は別の論点である。主な要点は「過度の健眼遮閉では健眼側の視覚発達が阻害されることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「atropine penalizationの副作用」の要点を示している。散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。
ウ：「屈折矯正単独効果」は別の論点である。主な要点は「光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「治療中止を段階的に考えられる」は別の論点である。主な要点は「急な中止後に視力が再低下することがあるため、段階的終了と経過観察が有用である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0107 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：標準

「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」

ア．遮閉治療の目的

イ．遮閉時間

ウ．Bangerter filter

エ．遮閉中の活動を工夫

0108 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「眼鏡装用を継続し、改善が頭打ちになるまで経過を評価する。光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。」

ア．屈折矯正単独効果

イ．Bangerter filter

ウ．atropine penalizationの副作用

エ．遮閉中の活動を工夫

答え・解説 正答：ウ

ア：「遮閉治療の目的」は別の論点である。主な要点は「健眼を一定時間遮閉することで弱視眼の視覚入力を増やし、皮質可塑性を利用する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「遮閉時間」は別の論点である。主な要点は「遮閉量は一律ではなく、重症度と反応、安全性、実行可能性に応じて調整する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「Bangerter filter」の要点を示している。半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。

エ：「遮閉中の活動を工夫」は別の論点である。主な要点は「遮閉中に視覚課題を行うと弱視眼を積極的に使用しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「屈折矯正単独効果」の要点を示している。眼鏡装用を継続し、改善が頭打ちになるまで経過を評価する。光学的矯正だけでも弱視が改善するため、追加治療を急がず反応を見る。

イ：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「atropine penalizationの副作用」は別の論点である。主な要点は「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「遮閉中の活動を工夫」は別の論点である。主な要点は「遮閉中に視覚課題を行うと弱視眼を積極的に使用しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0109 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「急な中止後に視力が再低下することがあるため、段階的終了と経過観察が有用である。」

ア．Bangerter filter

イ．atropine penalizationの副作用

ウ．治療中止を段階的に考えられる

エ．atropine penalization

答え・解説 正答：ウ

ア：「Bangerter filter」は別の論点である。主な要点は「半透明フィルターを健眼側眼鏡レンズへ貼り、健眼の視力を意図的に低下させる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「atropine penalizationの副作用」は別の論点である。主な要点は「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「治療中止を段階的に考えられる」の要点を示している。急な中止後に視力が再低下することがあるため、段階的終了と経過観察が有用である。

エ：「atropine penalization」は別の論点である。主な要点は「健眼へatropineを点眼して調節を抑え、弱視眼を使う機会を増やす。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0110 視能矯正治療・訓練 > 弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション | 難易度：基礎

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「弱視治療は実施可能性が重要で、複数のpenalization方法から適切なものを選ぶ。」

ア．atropine penalization

イ．家族と治療法

ウ．遮閉中の活動を工夫

エ．atropine penalizationの副作用

答え・解説 正答：イ

ア：「atropine penalization」は別の論点である。主な要点は「健眼へatropineを点眼して調節を抑え、弱視眼を使う機会を増やす。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「家族と治療法」の要点を示している。弱視治療は実施可能性が重要で、複数のpenalization方法から適切なものを選ぶ。

ウ：「遮閉中の活動を工夫」は別の論点である。主な要点は「遮閉中に視覚課題を行うと弱視眼を積極的に使用しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「atropine penalizationの副作用」は別の論点である。主な要点は「散瞳・調節麻痺による羞明や近見障害に加え、まれに口渇・顔面紅潮などが起こり得る。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「弱視訓練・遮閉・ペナリゼーション」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0111

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「輻湊・融像予備力など訓練可能な機能障害ではorthoptic exerciseが用いられる。」

ア．共同注視障害で頭部運動による代償

イ．後天性障害の目標

ウ．両眼視訓練の適応

エ．後天性サッカード障害の訓練

0112

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「近見時の輻湊能力と融像性輻湊予備力を高める。near point of convergenceやpositive fusional vergenceの改善を目標にする。」

ア．共同注視障害で頭部運動による代償

イ．プリズムと訓練を使い分けられる

ウ．後天性サッカード障害の訓練

エ．輻湊訓練の目的

答え・解説

正答：ウ

ア：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「後天性障害の目標」は別の論点である。主な要点は「患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「両眼視訓練の適応」の要点を示している。輻湊・融像予備力など訓練可能な機能障害ではorthoptic exerciseが用いられる。

エ：「後天性サッカード障害の訓練」は別の論点である。主な要点は「標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカード運用の改善を目的に行われる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「プリズムと訓練を使い分けられる」は別の論点である。主な要点は「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「後天性サッカード障害の訓練」は別の論点である。主な要点は「標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカード運用の改善を目的に行われる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「輻湊訓練の目的」の要点を示している。近見時の輻湊能力と融像性輻湊予備力を高める。near point of convergenceやpositive fusional vergenceの改善を目標にする。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0113

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「訓練は限界を超えて強制するのではなく、症状と能力に応じ段階づける。」

ア．後天性障害の目標

イ．共同注視障害で頭部運動による代償

ウ．眼球運動訓練の効果指標

エ．訓練負荷を段階的に設定

0114

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」

ア．プリズムと訓練を使い分けられる

イ．後天性障害の目標

ウ．共同注視障害で頭部運動による代償

エ．眼球運動訓練の効果指標

答え・解説

正答：エ

ア：「後天性障害の目標」は別の論点である。主な要点は「患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「眼球運動訓練の効果指標」は別の論点である。主な要点は「日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「訓練負荷を段階的に設定」の要点を示している。訓練は限界を超えて強制するのではなく、症状と能力に応じ段階づける。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「プリズムと訓練を使い分けられる」の要点を示している。偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。

イ：「後天性障害の目標」は別の論点である。主な要点は「患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「眼球運動訓練の効果指標」は別の論点である。主な要点は「日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0115

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：基礎

「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカード運用の改善を目的に行われる。」

ア．プリズムと訓練を使い分けられる

イ．後天性サッカード障害の訓練

ウ．眼球運動訓練の効果指標

エ．訓練負荷を段階的に設定

0116

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：応用

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「頭部を右へ回して残存する眼球運動と頭部運動を組み合わせる。共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」

ア．輻湊訓練の目的

イ．訓練の中止・再評価基準

ウ．共同注視障害で頭部運動による代償

エ．両眼視訓練の適応

答え・解説

正答：イ

ア：「プリズムと訓練を使い分けられる」は別の論点である。主な要点は「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「後天性サッカード障害の訓練」の要点を示している。標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカード運用の改善を目的に行われる。

ウ：「眼球運動訓練の効果指標」は別の論点である。主な要点は「日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「訓練負荷を段階的に設定」は別の論点である。主な要点は「訓練は限界を超えて強制するのではなく、症状と能力に応じ段階づける。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：ウ

ア：「輻湊訓練の目的」は別の論点である。主な要点は「near point of convergenceやpositive fusional vergenceの改善を目標にする。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「訓練の中止・再評価基準」は別の論点である。主な要点は「症状変化が新病変を示す可能性があり、訓練継続より安全確認を優先する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：この説明は「共同注視障害で頭部運動による代償」の要点を示している。頭部を右へ回して残存する眼球運動と頭部運動を組み合わせる。共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。

エ：「両眼視訓練の適応」は別の論点である。主な要点は「輻湊・融像予備力など訓練可能な機能障害ではorthoptic exerciseが用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0117

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：基礎

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「視線移動の規則性を高める課題は、読書時の行移動や再固定の効率改善を目標にできる。」

ア．共同注視障害で頭部運動による代償

イ．プリズムと訓練を使い分けられる

ウ．眼球運動訓練の効果指標

エ．読書サッカー障害の訓練

0118

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：応用

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。」

ア．共同注視障害で頭部運動による代償

イ．プリズムと訓練を使い分けられる

ウ．後天性サッカー障害の訓練

エ．眼球運動訓練の効果指標

答え・解説

正答：エ

ア：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「プリズムと訓練を使い分けられる」は別の論点である。主な要点は「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「眼球運動訓練の効果指標」は別の論点である。主な要点は「日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「読書サッカー障害の訓練」の要点を示している。視線移動の規則性を高める課題は、読書時の行移動や再固定の効率改善を目標にできる。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説

正答：エ

ア：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「プリズムと訓練を使い分けられる」は別の論点である。主な要点は「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「後天性サッカー障害の訓練」は別の論点である。主な要点は「標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカー運用の改善を目的に行われる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「眼球運動訓練の効果指標」の要点を示している。日常課題へ直結する機能指標を用いると実用的効果を判断しやすい。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0119

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：標準

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「症状変化が新病変を示す可能性があり、訓練継続より安全確認を優先する。」

ア．共同注視障害で頭部運動による代償

イ．後天性障害の目標

ウ．後天性サッカード障害の訓練

エ．訓練の中止・再評価基準

答え・解説

正答：エ

ア：「共同注視障害で頭部運動による代償」は別の論点である。主な要点は「共同注視障害では頭部運動を利用して視線到達範囲を補う代償戦略が実生活で役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「後天性障害の目標」は別の論点である。主な要点は「患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「後天性サッカード障害の訓練」は別の論点である。主な要点は「標的間を計画的に視線移動する反復課題は、探索効率やサッカード運用の改善を目的に行われる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「訓練の中止・再評価基準」の要点を示している。症状変化が新病変を示す可能性があり、訓練継続より安全確認を優先する。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0120

視能矯正治療・訓練 > 両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ | 難易度：標準

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「店舗内探索や商品発見を想定した実生活課題を訓練へ組み込む。患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。」

ア．後天性障害の目標

イ．訓練負荷を段階的に設定

ウ．プリズムと訓練を使い分けられる

エ．両眼視訓練の適応

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は「後天性障害の目標」の要点を示している。店舗内探索や商品発見を想定した実生活課題を訓練へ組み込む。患者の活動目標に直結した課題はリハビリテーションの実用性を高める。

イ：「訓練負荷を段階的に設定」は別の論点である。主な要点は「訓練は限界を超えて強制するのではなく、症状と能力に応じ段階づける。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「プリズムと訓練を使い分けられる」は別の論点である。主な要点は「偏位が変動する回復期では調整しやすいプリズムが日常機能を補助する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「両眼視訓練の適応」は別の論点である。主な要点は「輻湊・融像予備力など訓練可能な機能障害ではorthoptic exerciseが用いられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「両眼視機能訓練・後天眼球運動障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0121 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：応用

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」

ア．近用拡大鏡の適応
イ．望遠鏡の適応
ウ．遮光眼鏡の役割
エ．ロービジョンを機能的に捉えられる

0122 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。」

ア．ロービジョン評価項目
イ．視野狭窄で補助戦略を選べる
ウ．中心暗点で偏心視
エ．近用拡大鏡の適応

答え・解説 正答：エ

ア：「近用拡大鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「望遠鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「望遠鏡は遠方の像を拡大して標識や黒板を見る支援に用いる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「遮光眼鏡の役割」は別の論点である。主な要点は「特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「ロービジョンを機能的に捉えられる」の要点を示している。ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「ロービジョン評価項目」の要点を示している。補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。
イ：「視野狭窄で補助戦略を選べる」は別の論点である。主な要点は「周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「中心暗点で偏心視」は別の論点である。主な要点は「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「近用拡大鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0123 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：基礎

「ロービジョン評価・視覚補助具」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」

ア．ロービジョンを機能的に捉えられる
イ．近用拡大鏡の適応
ウ．中心暗点で偏心視
エ．視野狭窄で補助戦略を選べる

0124 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「単眼鏡などの望遠系補助具。望遠鏡は遠方の像を拡大して標識や黒板を見る支援に用いる。」

ア．ロービジョンを機能的に捉えられる
イ．望遠鏡の適応
ウ．ロービジョン評価項目
エ．視野狭窄で補助戦略を選べる

答え・解説 正答：イ

ア：「ロービジョンを機能的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「近用拡大鏡の適応」の要点を示している。近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。
ウ：「中心暗点で偏心視」は別の論点である。主な要点は「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「視野狭窄で補助戦略を選べる」は別の論点である。主な要点は「周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：イ

ア：「ロービジョンを機能的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「望遠鏡の適応」の要点を示している。単眼鏡などの望遠系補助具。望遠鏡は遠方の像を拡大して標識や黒板を見る支援に用いる。
ウ：「ロービジョン評価項目」は別の論点である。主な要点は「補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「視野狭窄で補助戦略を選べる」は別の論点である。主な要点は「周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0125 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「電子機器は課題に応じて表示倍率やコントラストを柔軟に変えられる。」

ア．視野狭窄で補助戦略を選べる
イ．電子拡大機器の利点
ウ．ロービジョン目標
エ．補助具適合を実生活課題で評価

答え・解説 正答：イ

ア：「視野狭窄で補助戦略を選べる」は別の論点である。主な要点は「周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「電子拡大機器の利点」の要点を示している。電子機器は課題に応じて表示倍率やコントラストを柔軟に変えられる。
ウ：「ロービジョン目標」は別の論点である。主な要点は「具体的活動目標を設定すると必要倍率や使用距離を決めやすい。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「補助具適合を実生活課題で評価」は別の論点である。主な要点は「理論倍率だけでなく、読書速度、姿勢、操作、照明、疲労など実用性を確認する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0126 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「高倍率ほど像は大きくなる一方、実視野や被写界深度が狭くなり操作が難しくなることがある。」

ア．ロービジョン評価項目
イ．ロービジョンを機能的に捉えられる
ウ．拡大率と視野の関係
エ．補助具適合を実生活課題で評価

答え・解説 正答：ウ

ア：「ロービジョン評価項目」は別の論点である。主な要点は「補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「ロービジョンを機能的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「拡大率と視野の関係」の要点を示している。高倍率ほど像は大きくなる一方、実視野や被写界深度が狭くなり操作が難しくなることがある。
エ：「補助具適合を実生活課題で評価」は別の論点である。主な要点は「理論倍率だけでなく、読書速度、姿勢、操作、照明、疲労など実用性を確認する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0127 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「ロービジョンでは光量不足だけでなく過度のグレアも読書効率を下げる。」

ア．照明調整の意義
イ．ロービジョンを機能的に捉えられる
ウ．中心暗点で偏心視
エ．補助具適合を実生活課題で評価

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「照明調整の意義」の要点を示している。ロービジョンでは光量不足だけでなく過度のグレアも読書効率を下げる。
イ：「ロービジョンを機能的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「中心暗点で偏心視」は別の論点である。主な要点は「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「補助具適合を実生活課題で評価」は別の論点である。主な要点は「理論倍率だけでなく、読書速度、姿勢、操作、照明、疲労など実用性を確認する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0128 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「遮光眼鏡やフィルターレンズ。特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。」

ア．遮光眼鏡の役割
イ．ロービジョンを機能的に捉えられる
ウ．中心暗点で偏心視
エ．ロービジョン目標

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「遮光眼鏡の役割」の要点を示している。遮光眼鏡やフィルターレンズ。特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。
イ：「ロービジョンを機能的に捉えられる」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは視力値だけでなく、読書・移動・家事・仕事などの機能障害を評価する。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「中心暗点で偏心視」は別の論点である。主な要点は「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「ロービジョン目標」は別の論点である。主な要点は「具体的活動目標を設定すると必要倍率や使用距離を決めやすい。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0129 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」

ア．近用拡大鏡の適応
イ．遮光眼鏡の役割
ウ．中心暗点で偏心視
エ．ロービジョン評価項目

答え・解説 正答：ウ

ア：「近用拡大鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「遮光眼鏡の役割」は別の論点である。主な要点は「特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「中心暗点で偏心視」の要点を示している。中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。
エ：「ロービジョン評価項目」は別の論点である。主な要点は「補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0130 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：標準

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。」

ア．ロービジョン評価項目
イ．視野狭窄で補助戦略を選べる
ウ．近用拡大鏡の適応
エ．望遠鏡の適応

答え・解説 正答：イ

ア：「ロービジョン評価項目」は別の論点である。主な要点は「補助具選択には視覚機能と患者の具体的な活動目標を組み合わせる必要がある。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「視野狭窄で補助戦略を選べる」の要点を示している。周辺視野が狭い場合、意識的探索で環境情報を補うことができる。
ウ：「近用拡大鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「望遠鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「望遠鏡は遠方の像を拡大して標識や黒板を見る支援に用いる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0131 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：基礎

「ロービジョン評価・視覚補助具」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「理論倍率だけでなく、読書速度、姿勢、操作、照明、疲労など実用性を確認する。」

ア．照明調整の意義
イ．補助具適合を実生活課題で評価
ウ．遮光眼鏡の役割
エ．電子拡大機器の利点

0132 ロービジョン・視能リハ > ロービジョン評価・視覚補助具 | 難易度：応用

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「顔を見る距離と場面を確認し、その課題に合う補助具や環境調整を試す。具体的活動目標を設定すると必要倍率や使用距離を決めやすい。」

ア．近用拡大鏡の適応
イ．遮光眼鏡の役割
ウ．ロービジョン目標
エ．中心暗点で偏心視

答え・解説 正答：イ

ア：「照明調整の意義」は別の論点である。主な要点は「ロービジョンでは光量不足だけでなく過度のグレアも読書効率を下げる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「補助具適合を実生活課題で評価」の要点を示している。理論倍率だけでなく、読書速度、姿勢、操作、照明、疲労など実用性を確認する。
ウ：「遮光眼鏡の役割」は別の論点である。主な要点は「特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「電子拡大機器の利点」は別の論点である。主な要点は「電子機器は課題に応じて表示倍率やコントラストを柔軟に変えられる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ウ

ア：「近用拡大鏡の適応」は別の論点である。主な要点は「近用拡大鏡は文字や細部を拡大し、近見課題を支援する代表的補助具である。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「遮光眼鏡の役割」は別の論点である。主な要点は「特定波長や過剰光を減らし、眩しさやコントラスト低下を軽減できる場合がある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「ロービジョン目標」の要点を示している。顔を見る距離と場面を確認し、その課題に合う補助具や環境調整を試す。具体的活動目標を設定すると必要倍率や使用距離を決めやすい。
エ：「中心暗点で偏心視」は別の論点である。主な要点は「中心視が使いにくい場合、比較的良好な傍中心網膜をpreferred retinal locusとして利用する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ロービジョン評価・視覚補助具」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0133 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：応用

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」

ア．服薬管理
イ．調理動作
ウ．ADLとIADL
エ．屋内移動の安全

答え・解説 正答：ウ

ア：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「調理動作」は別の論点である。主な要点は「コントラスト・触覚・一定配置を利用すると視覚依存を減らして安全に作業できる。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「ADLとIADL」の要点を示している。IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。
エ：「屋内移動の安全」は別の論点である。主な要点は「物理的整理とコントラスト強調は転倒・衝突予防に役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0134 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：応用

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」

ア．ADLとIADL
イ．読書訓練の成果を実用指標で評価
ウ．服薬管理
エ．外出・交通利用

答え・解説 正答：ウ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「読書訓練の成果を実用指標で評価」は別の論点である。主な要点は「視力値だけでなく、実際にどれだけ読めるかを測ることが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「服薬管理」の要点を示している。残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。
エ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要ながある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0135 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：標準

次の内容と最も結び付く見出しはどれか。
「コントラスト・触覚・一定配置を利用すると視覚依存を減らして安全に作業できる。」

ア．ADLとIADL
イ．読書訓練の成果を実用指標で評価
ウ．患者の役割・趣味を支援目標
エ．調理動作

答え・解説 正答：エ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「読書訓練の成果を実用指標で評価」は別の論点である。主な要点は「視力値だけでなく、実際にどれだけ読めるかを測ることが重要である。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「患者の役割・趣味を支援目標」は別の論点である。主な要点は「社会参加はQOLに直結し、本人の価値観に沿った目標が継続意欲を高める。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「調理動作」の要点を示している。コントラスト・触覚・一定配置を利用すると視覚依存を減らして安全に作業できる。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0136 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：基礎

この説明が扱う中心論点として最も適切なものはどれか。
「通路を確保し、段差や家具端を高コントラストで示す。物理的整理とコントラスト強調は転倒・衝突予防に役立つ。」

ア．ADLとIADL
イ．外出・交通利用
ウ．屋内移動の安全
エ．服薬管理

答え・解説 正答：ウ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要ながある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「屋内移動の安全」の要点を示している。通路を確保し、段差や家具端を高コントラストで示す。物理的整理とコントラスト強調は転倒・衝突予防に役立つ。
エ：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0137 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：基礎

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「デジタル機器のアクセシビリティ機能は情報取得や連絡、移動支援に役立つ。」

ア．ADLとIADL
イ．外出・交通利用
ウ．服薬管理
エ．スマートフォンのアクセシビリティ

答え・解説 正答：エ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要ながある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「スマートフォンのアクセシビリティ」の要点を示している。デジタル機器のアクセシビリティ機能は情報取得や連絡、移動支援に役立つ。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0138 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「視力値だけでなく、実際にどれだけ読めるかを測ることが重要である。」

ア．ADLとIADL
イ．読書訓練の成果を実用指標で評価
ウ．服薬管理
エ．調理動作

答え・解説 正答：イ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「読書訓練の成果を実用指標で評価」の要点を示している。視力値だけでなく、実際にどれだけ読めるかを測ることが重要である。
ウ：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「調理動作」は別の論点である。主な要点は「コントラスト・触覚・一定配置を利用すると視覚依存を減らして安全に作業できる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0139 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：標準

「ADL訓練・社会参加支援」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「仕事内容に合わせたICT補助と照明・休憩・画面配置調整が就労継続を支える。」

ア．ADLとIADL
イ．外出・交通利用
ウ．就労支援の視点
エ．服薬管理

答え・解説 正答：ウ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要なことがある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：この説明は「就労支援の視点」の要点を示している。仕事内容に合わせたICT補助と照明・休憩・画面配置調整が就労継続を支える。
エ：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0140 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：標準

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「移動能力を評価し、必要に応じ歩行訓練や公共交通利用の支援につなげる。視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要なことがある。」

ア．ADLとIADL
イ．スマートフォンのアクセシビリティ
ウ．就労支援の視点
エ．外出・交通利用

答え・解説 正答：エ

ア：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：「スマートフォンのアクセシビリティ」は別の論点である。主な要点は「デジタル機器のアクセシビリティ機能は情報取得や連絡、移動支援に役立つ。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「就労支援の視点」は別の論点である。主な要点は「仕事内容に合わせたICT補助と照明・休憩・画面配置調整が就労継続を支える。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：この説明は「外出・交通利用」の要点を示している。移動能力を評価し、必要に応じ歩行訓練や公共交通利用の支援につなげる。視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要なことがある。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0141 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「社会参加はQOLに直結し、本人の価値観に沿った目標が継続意欲を高める。」

ア．患者の役割・趣味を支援目標
イ．ADLとIADL
ウ．外出・交通利用
エ．調理動作

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「患者の役割・趣味を支援目標」の要点を示している。社会参加はQOLに直結し、本人の価値観に沿った目標が継続意欲を高める。
イ：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要ながある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「調理動作」は別の論点である。主な要点は「コントラスト・触覚・一定配置を利用すると視覚依存を減らして安全に作業できる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0142 ロービジョン・視能リハ > ADL訓練・社会参加支援 | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「視認性と環境安全性を高めることで転倒リスクを下げられる。」

ア．転倒予防を視覚面から支援
イ．ADLとIADL
ウ．外出・交通利用
エ．服薬管理

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「転倒予防を視覚面から支援」の要点を示している。視認性と環境安全性を高めることで転倒リスクを下げられる。
イ：「ADLとIADL」は別の論点である。主な要点は「IADLは買い物、調理、交通、金銭管理などより複雑な生活活動を指す。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「外出・交通利用」は別の論点である。主な要点は「視能リハだけで完結せず、移動支援専門職や福祉サービスとの連携が必要ながある。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「服薬管理」は別の論点である。主な要点は「残存視力と触覚情報を組み合わせると服薬の安全性を高められる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「ADL訓練・社会参加支援」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0143 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：標準

次の内容と最も結びつく見出しはどれか。
「作業療法はADL・IADLと環境調整を扱い、視能評価を生活機能へつなげる。」

ア．多職種連携の役割

イ．機能性視覚障害

ウ．機能性視覚障害へ支持的に説明

エ．機能性視覚障害で器質疾患を除外

0144 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：応用

この説明が扱う中心論点として最も適切なのはどれか。
「歩行訓練・移動支援の専門職や地域支援機関へ紹介する。白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」

ア．歩行訓練専門職へつなげられる

イ．機能性視覚障害

ウ．他施設連携で情報を整理

エ．福祉・教育機関との連携

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「多職種連携の役割」の要点を示している。作業療法はADL・IADLと環境調整を扱い、視能評価を生活機能へつなげる。

イ：「機能性視覚障害」は別の論点である。主な要点は「機能性視覚障害では症状と解剖学的・生理学的所見の不一致がみられる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「機能性視覚障害へ支持的に説明」は別の論点である。主な要点は「非難や対立を避け、安心と信頼を与える説明が管理の基本となる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「機能性視覚障害で器質疾患を除外」は別の論点である。主な要点は「機能性診断は器質疾患を見逃さないことが前提で、併存疾患にも注意する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「歩行訓練専門職へつなげられる」の要点を示している。歩行訓練・移動支援の専門職や地域支援機関へ紹介する。白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。

イ：「機能性視覚障害」は別の論点である。主な要点は「機能性視覚障害では症状と解剖学的・生理学的所見の不一致がみられる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「他施設連携で情報を整理」は別の論点である。主な要点は「紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「福祉・教育機関との連携」は別の論点である。主な要点は「学校場面での見え方を踏まえた合理的配慮が学習参加を支える。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0145 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：標準

次の説明が示している学習項目として最も適切なのはどれか。
「学校場面での見え方を踏まえた合理的配慮が学習参加を支える。」

ア．歩行訓練専門職へつなげられる

イ．福祉・教育機関との連携

ウ．機能的視覚障害で器質疾患を除外

エ．機能的視覚障害へ支持的に説明

0146 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：基礎

学習ノートに次の記述がある。内容を整理する見出しとして最も適切なのはどれか。
「紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。」

ア．機能的視覚障害へ支持的に説明

イ．他施設連携で情報を整理

ウ．機能的視覚障害

エ．歩行訓練専門職へつなげられる

答え・解説 正答：イ

ア：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「福祉・教育機関との連携」の要点を示している。学校場面での見え方を踏まえた合理的配慮が学習参加を支える。

ウ：「機能的視覚障害で器質疾患を除外」は別の論点である。主な要点は「機能的診断は器質疾患を見逃さないことが前提で、併存疾患にも注意する。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「機能的視覚障害へ支持的に説明」は別の論点である。主な要点は「非難や対立を避け、安心と信頼を与える説明が管理の基本となる。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：イ

ア：「機能的視覚障害へ支持的に説明」は別の論点である。主な要点は「非難や対立を避け、安心と信頼を与える説明が管理の基本となる。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：この説明は「他施設連携で情報を整理」の要点を示している。紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。

ウ：「機能的視覚障害」は別の論点である。主な要点は「機能的視覚障害では症状と解剖学的・生理学的所見の不一致がみられる。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0147 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：応用

「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」を復習している。次の要点に最も直接対応する論点はどれか。
「機能性視覚障害では症状と解剖学的・生理学的所見の不一致がみられる。」

ア．機能性視覚障害

イ．多職種連携の役割

ウ．歩行訓練専門職へつなげられる

エ．他施設連携で情報を整理

0148 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：基礎

次の記述を正しく分類するとき、最も適切な学習項目はどれか。
「眼・視神経・視路の器質疾患がないか十分に評価する。機能性診断は器質疾患を見逃さないことが前提で、併存疾患にも注意する。」

ア．歩行訓練専門職へつなげられる

イ．多職種連携の役割

ウ．福祉・教育機関との連携

エ．機能性視覚障害で器質疾患を除外

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「機能性視覚障害」の要点を示している。機能性視覚障害では症状と解剖学的・生理学的所見の不一致がみられる。

イ：「多職種連携の役割」は別の論点である。主な要点は「作業療法はADL・IADLと環境調整を扱い、視能評価を生活機能へつなげる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：「他施設連携で情報を整理」は別の論点である。主な要点は「紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：エ

ア：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

イ：「多職種連携の役割」は別の論点である。主な要点は「作業療法はADL・IADLと環境調整を扱い、視能評価を生活機能へつなげる。」で、今回の説明とは一致しない。

ウ：「福祉・教育機関との連携」は別の論点である。主な要点は「学校場面での見え方を踏まえた合理的配慮が学習参加を支える。」で、今回の説明とは一致しない。

エ：この説明は「機能性視覚障害で器質疾患を除外」の要点を示している。眼・視神経・視路の器質疾患がないか十分に評価する。機能性診断は器質疾患を見逃さないことが前提で、併存疾患にも注意する。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

0149 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：標準

視能訓練士国家試験の学習で次の内容を確認した。対応する論点はどれか。
「非難や対立を避け、安心と信頼を与える説明が管理の基本となる。」

ア．他施設連携で情報を整理
イ．機能性視覚障害へ支持的に説明
ウ．多職種連携の役割
エ．歩行訓練専門職へつなげられる

0150 ロービジョン・視能リハ > 多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ | 難易度：標準

次の説明を根拠に、優先して復習すべき学習項目を選べ。
「心理社会的要因が関与する場合、眼科的フォローと並行した多職種支援が有用である。」

ア．機能性視覚障害で多職種連携
イ．歩行訓練専門職へつなげられる
ウ．他施設連携で情報を整理
エ．福祉・教育機関との連携

答え・解説 正答：イ

ア：「他施設連携で情報を整理」は別の論点である。主な要点は「紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。」で、今回の説明とは一致しない。
イ：この説明は「機能性視覚障害へ支持的に説明」の要点を示している。非難や対立を避け、安心と信頼を与える説明が管理の基本となる。
ウ：「多職種連携の役割」は別の論点である。主な要点は「作業療法はADL・IADLと環境調整を扱い、視能評価を生活機能へつなげる。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は「機能性視覚障害で多職種連携」の要点を示している。心理社会的要因が関与する場合、眼科的フォローと並行した多職種支援が有用である。
イ：「歩行訓練専門職へつなげられる」は別の論点である。主な要点は「白杖や安全な移動方法は専門的評価・訓練が必要となることがある。」で、今回の説明とは一致しない。
ウ：「他施設連携で情報を整理」は別の論点である。主な要点は「紹介先が支援を継続できるよう医学情報と機能情報を簡潔に共有する。」で、今回の説明とは一致しない。
エ：「福祉・教育機関との連携」は別の論点である。主な要点は「学校場面での見え方を踏まえた合理的配慮が学習参加を支える。」で、今回の説明とは一致しない。

総合解説：この問題は「多職種・他施設連携・機能的視能障害リハ」内の関連概念を、説明から論点へ逆引きして整理する問題である。似た概念を要点で区別できるようにする。

対象：令和9年版視能訓練士国家試験出題基準 | 基準日 2026-09-08